

# 全国の情勢～国産花きの輸出について～

和歌山県農林水産部経営支援課 主任 山本香珠代

## はじめに

近年、国内の花き生産は、生産者の減少、切り花の輸入増加等を背景に、栽培面積、出荷量とも減少傾向にあります。一方で、花きの輸出額は増加傾向にあり、平成 27 年の花き輸出額は約 85 億円で、大半が植木・盆栽です。切り花は約 5 億円で、輸出額の約 6%程度と、海外市場ではまだまだ認知度が低く、金額も少ないものの、順調に伸びています（図 1）。

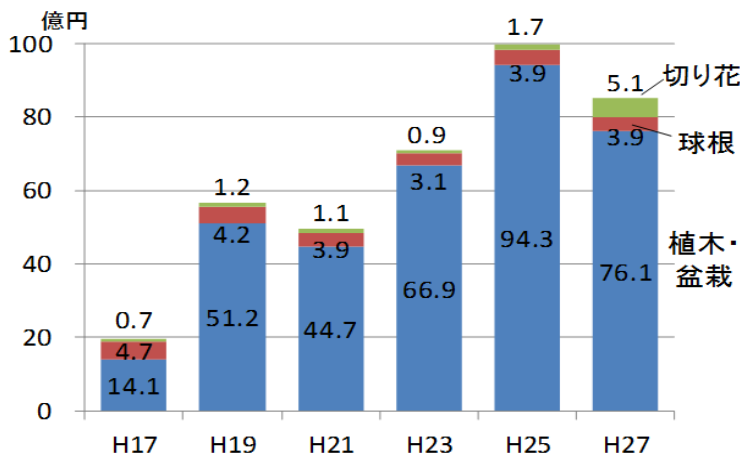


図 1 国内花き輸出額の推移

資料：財務省「貿易統計」

ここでは、品目別に輸出の取り組みについて紹介します。

## ○植木・盆栽

植木は、国内消費が減退するなか、日本庭園が海外の富裕層に評価され、輸出額は伸びています。主な輸出品目は、イヌマキやイヌツゲ、ゴヨウマツ等です。

千葉、埼玉、三重県等では、国内の仲業者を經由して中国、ベトナム、香港等に輸出されています。

盆栽も、国際的なブームを背景に海外での需要が高まっています。栃木県鹿沼市のさつきも、平成 14 年から生産者団体が中心となり、EU 諸国、ベトナム、中国等へ輸出され、年々拡大傾向にあります。

植木・盆栽など栽培用植物を輸出する場合、侵入病害虫に警戒し、厳しい規制が求め

このような状況の中、国では、平成 32 年に輸出額 150 億円を目標に、海外市場の獲得に向けてプロモーション活動を強化する他、次世代施設園芸団地の整備や産地間連携によるリレー出荷で、高品質な切り花・鉢物を安定供給できる体制づくりを進め、さらなる輸出拡大を目指しています（表 1）。

表 1 国内花きの輸出実績と目標金額

品目名	H27 実績		H32 目標	
	輸出額(億円)	主な輸出先	輸出額(億円)	主な輸出先
輸出重点品目				
植木・盆栽・鉢物	76.1	中国、香港、ベトナム	140	中国、香港、EU
切り花	5.1	香港、米国、中国	10	香港、シンガポール、米国、カナダ、ロシア
合計	81.2		150	
球根類他	3.9			
総合計	85.1			

(※農林水産省HPより)

れることが多いです。そのため、相手国の検疫条件に対応した栽培管理（隔離栽

培法) や病虫害 (特にセンチュウ) 防除対策が重要になっています。

また、イヌマキ等一部品目で資源の枯渇化も懸念されており、今後は新たな品目の開拓も必要です。

## ○切り花

切り花は、なにわ花いちばや大田花き等花き卸売市場を経由した輸出が主流です。

中でも、スイートピー、トルコギキョウ、ラナンキュラス等は海外でも人気があり、品質的な競争力もあります。主な輸出先はアメリカ、カナダ、中国、香港等です。

本県も、市場を通じてスイートピーやシャクヤクがアメリカや東南アジア等に輸出されています。特に、スイートピーは、オリジナル品種を中心に約 20 品種が輸出され、花色が豊富でボリュームがある (花弁が大きく、輪数が多い) と海外から高い評価を得ています。

市場を通じた輸出は、市場手数料が必要ですが、市場側でリパック作業や事務手続き等が行われるため、産地側の手間やリスクが少ないという利点があります。また、国内出荷に比べて価格も比較的安定しているため、有利販売につながっています。

近年は、枝ものの需要や新たな輸出国の開拓も進んでおり、さらなる販路拡大が期待できます。

生産者や産地側は、相手国のニーズや商取引などの情報が少なく、また入手しづらいのが現状です。今後、さらなる輸出拡大を図るためには、卸売市場等からの積極的な情報収集や生産者団体等によ

る海外での展示会、商談会の出展にも取り組むことが必要です。

最後に、輸出の先進事例として有名な岩手県八幡平市の安代りんどうを紹介いたします。

安代りんどうは、オランダをはじめとした EU 諸国やアメリカへの輸出の他、ニュージーランドやチリでの生産委託を通し、世界市場に周年的に供給できる体制づくりに取り組んでいます。また、海外での種苗登録や鉢物品種のライセンス契約を行うなど知的財産の輸出にも取り組み、常に産地の優位性を維持しながら、世界に通用するブランドづくりを着実に進めています。

## おわりに

市場を経由した切り花の輸出は、産地のリスクも低く、価格も安定しているため、各産地とも拡大傾向にあります。

しかしながら、近年の異常気象や栽培面積の減少で、切り花の安定した出荷量が確保できず、国内市場への安定供給がままならない事態も発生しています。今後、量、品質で国内外の需要に応じていくため、まずは足腰の強い産地づくりをともに進めていく必要があると考えています。

